

第42回 全事研大会開幕

ぞめきの音と共に華やかに！



地元小学生が阿波踊りで歓迎

第42回全国公立小中学校事務研究大会徳島大会が、アスティとくしまを主な会場として開催されている。期間は、7月28日から30日の三日間。「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務

ひろがれ！つながれ！阿波（OUR）ネットワーク」を大会テーマに全国から学校事務関係者約2000人が集まった。また、地元藍住東小学校、加茂小学校の児童による阿波踊りが大会

ふたたび徳島で

阿波版
五番札所



創刊号
発行所
第5分科会
(徳島支部1)

オーブーノンケに花を添えた
二度目となる今回も先輩たちの思いを受け継ぎ、学校事務職員の熱気が伝わる阿波会議となるよう、全会員で大会運営に携わったたの経験が、今後の県事研のさらなる発展に繋がることを期待している。

午後の分科会は、日本N.I.E.学会常任理事である鳴門教育大学大学院准教授阪根健二氏、徳島新聞社編集局読者室部長森野永巳氏を講師に、新聞づくりを体験した。リーダー役を務めた研究部員達は、「鳴門教育大学公開講座」や「事務職員



阪根健二氏

第5分科会では午前中、学校事務職員の地域連携への参画及び学校事務組織のあり方の二つのテーマで、シンポジウムが開かれた。鳴門教育大学院阪根健二准教授、徳島新聞社森野永巳部長、教職員課長白井俊氏、富田中学校小山晃弘事務室長の4名がシンポジストとなり、貴重な意見が出された。

阪根氏によると、いま学校と地域が一体となり、教育を推し進めるためには、ネット的な関わりが紹介された。まわりが大切である。た、災害時に避難所となる学事務室が広報紙という手段に校は、非常時にこそ、素早くシルエット化され、その輪郭線が赤い背景に重ねられて、全体が赤く染められる。このデザインは、徳島県の県花である「ツバキ」をモチーフとしている。徳島県の特徴を表現するため、ツバキの花びらを構成する葉の形を、各部会のロゴマークやシンボルマークを組み合わせて構成している。また、各部会の色を用いて、ツバキの花びらを表現している。

シンポジウム事務室未来展望

～徳島で事務長誕生なるか～

より情報発信を行い、地域連携の中心を担っていくべきであると述べた。森野氏からは、からは徳島県での学校事務の情報発信出来るスキルをもつべきであると述べた。白井氏からは、からは徳島県での学校事務のグループ化について、今後の

シンポジウム事務室未来展望



広報紙づくりに取り組む参加者

のための新聞づくり講座」を通して、新聞づくりのノウハウを一から学び、この日を迎えた。新聞講座では地元紙である徳島新聞の協力により、校内号外・地域号外を徳島新聞の宅配網を通じて地域に届けるといった取組が、地域連携に大きな効果を上げている現状を知り、広報紙の重要性を学ぶことができた。また、講



杏野と日出

「押さえて流す」と、割付のツボを押さえながら熱心に取り組んだ。がつた新聞が徳島とつなぐ橋渡しとなり、事務職員が学校と地盤なぐきっかけとなつて、ることを願つてゐる。

が島の人々に直接取材することにより、島への思いを一層強くし、地域の人々と学校がより強い絆で結ばれたことがうかがわれた。参加者は、ネットワークづくりの橋渡しとなる効果的な新聞・広報紙づくりについての講義を受けた後、「地元に帰って徳島大会を伝えよう!」を合い言葉に新聞づくりのプロから教わつて「見出」は九文字以内二

この旅には「お接待」というおもてなしがあります。修行の旅を励ます気持ちと寄託の気持ちが込められていますから、「お接待」は素直に受け、地元の方とのふれあいを大切にしたいのです。第五分科会参加者の皆様に、徳島からお接待の気持ちをたくさん届けたいと思います。

編集後記

芸などの習作展が開かれて
います。この「里芋の会
習作展」は、お互いの趣
味を持ち寄り、学校事務職
員の愉しい交流の場にしよ
うと、今年で4年目を迎える
そうです。今回は、第42回全
島大会にお越しの皆様に、
阿波の地の熱い思い出とな

るよう会員一同を
を召わせました。

期日 7月28~30日9:30~18:00(30日は13:30まで)
場所 アスティとくしま2階「フレアとくしま展示ギャラリー」
(入場無料)